

道

みち

公益財団法人 仏教伝道協会

No. 15
2026

BDK
Newsletter

02	設立60周年記念事業報告
06	公益財団法人 仏教伝道協会 2025年度の主な活動
	1. 出版事業
	●「仏教聖典」を訪ねて *長年のご協力に感謝 ～株式会社東横インへ感謝状贈呈
	●2025年度「仏教聖典」頒布状況
	●「仏教聖典」マラーティー語版 寄贈 (インド)
	●「英訳大蔵経」出版状況
	●「輝け!お寺の掲示板大賞」2025
	●第12回「一日一訓カレンダーフォトコンテスト」 *第11回「一日一訓カレンダーフォトコンテスト入選作 写真展」
11	2. 助成・表彰事業
	●奨学金事業報告 *「日本人留学生奨学金」 *「外国人留学生奨学金」
	●第59回「仏教伝道文化賞」贈呈式
	●2025年度「助成金事業」
19	3. 啓蒙活動・支援事業・仏教講座の開催
	●FM大阪「笑い飯哲夫のサタデー★ナイト仏教」
	●仏教伝道協会「花まつり」2025
	●第53回「実践布教研究会」
	●書道パフォーマンス 2025
	●小学校副教材「みんなのまちの古いたてものにどきどき」
	●「ブツビ!」
	●「仏教を英語で学ぶ会」2025
	●「願いの一字コンテスト」2026
	●「イチから学ぶ日本の仏教」in 仙台
	●「ウェルネスプロジェクト」始動! 「仏教ヨガ講座」「特別坐禅会」
	●「エンジョイ!カバディ」
	●「こころを豊かにする精進料理教室」2025
	●「Tokyo Temple Run」
	●「死」を考えるシンポジウム *第1回「死んだらどうなる?」 *第2回「もう一度会いたいと思ったときに」 *第3回「いのちを選ぶということ」
31	ちょっとひと休み 「仏教聖典」名入れ販売開始
32	海外協力機関のご紹介
	●米国仏教伝道協会 ●ハワイ仏教伝道協会 ●メキシコ仏教伝道協会 ●タイ仏教伝道協会 ●ヨーロッパ仏教伝道協会
40	“ささえあって” 「団体(だんたい)」



公益財団法人 仏教伝道協会
会長 木村 清孝



公益財団法人 仏教伝道協会

BUKKYO DENDO KYOKAI

BDKニュースレター No.15 2026-2,000

令和8(2026)年6月1日発行(毎年1回発行)

発行 公益財団法人仏教伝道協会
〒108-0014 東京都港区芝4-3-14
電話: 03-3455-5851(代)
FAX: 03-3798-2758

編集 江口 郁(公益財団法人仏教伝道協会)
印刷 株式会社アーク/デザイン 田所淳一

設立 60 周年を迎えて



2025年、当協会は設立60周年という大きな節目を迎えました。おかげさまで諸々の記念事業も滞りなく円成（えんじょう）することができました。あらためて、私どもの活動を長きにわたり支えてくださっている有縁の皆さまに、深く感謝申し上げます。

当協会は設立以来、仏教精神を広く社会に伝えるべく、「仏教聖典」の普及をはじめ、国内外で多様な伝道活動を展開し、仏教の智慧と慈悲の教えを現代に生かす道を模索してまいりました。

この60年、世界情勢や人々の価値観・宗教観は劇的に変化いたしました。度重なる災害や紛争が続く昨今、人々の不安や孤独感はいっそう募っているように見受けられます。

私たちはこうした人心のゆらぎを真摯に受け止め、これまでの歩みを振り返り、成果と課題を見つめ直した結果、次なる歩みへの指針として、中期活動スローガンに「もつとつながらるもつとつなげる」を掲げました。

皆さまとの尊いご縁を大切にしながら、み仏の教えを個々人へ、そして社会全体へと橋渡しする役割を担い、今を生きる人々に伝える道をたゆまず歩み続けてまいる所存です。

今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

合掌

設立60周年記念事業報告

おかげさまで、公益財団法人仏教伝道協会は2025年に設立60周年を迎えることができました。

◇ 中期計画行動指針

節目の年を迎えるにあたり、これまでの活動を振り返り、その成果と課題をしっかりと見つめ直しました。グローバル化、多様化と同時に分断や孤立が進む現代において、私たちはあらためて仏教の教えが持つ普遍的な価値とその現代的な意義を深く認識し、不安

や孤独と向き合う人びとへ 仏教を届ける必要があると感じました。

そして、これからの中期的活動のスローガンとして **「もっとつながる もっとつなげる」** を掲げ、次の行動指針のもと活動を展開することといたしました。

■今を生きる人へ、今活きる教えを届けます

■すべての人が穏やかに暮らせるきっかけを提供します

■すべての人が仏教精神にアクセス可能な環境をつくります

■さまざまな団体と協働し、広い視野を持って活動します

■社会の問題に目を向け、平和な世界の実現に貢献します

私たちの活動は決して一人で行えるものではありません。今後とも宗派を超えた多くの方がた、学術研究機関、さまざまな分野の皆様との連携を強化し、ご協力を得ながら、より良い社会

の実現に向けて歩んでいきたいと考えています。今後とも、皆様の温かいご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

◆目的（仏教伝道協会の中期的な共有ビジョン）

「もっとつながる もっとつなげる」



個人



仏教



社会



心と身体



過去と未来

◇ 設立60周年記念事業

設立60周年にあたり記念事業を展開いたしました。公式サイトに「仏教伝道協会60th記念ページ」を制作し、当協会理事長 沼田恵明からのメッセージ、60年のあゆみ（年表）を掲載し、これからの取り組みについて紹介しました。

2025年9月27日に

は、築地本願寺本堂を会場に、記念シンポジウム「だいきぶ教」を開催。会場、オンライン合わせて約400名にご参加いただきました。古館伊知郎氏（フリアナウンサー）による特別講演「修行をしない私たちの仏教」、積徹宗氏（宗教学者）、伊藤比呂美

氏（詩人）、中島岳志氏（政治学者、歴史学者）によるパネルディスカッション「私が仏教にホレた理由」を行いました。テーマである「だいきぶ教」にそつて、講師それぞれに自身の感じる仏教の魅力をお話を伺う中で、新たな気づきや発見、興味を与えていただき、参加者と仏教の素晴らしさや魅力を共有することができました。



特別講演（古館伊知郎氏）



古館伊知郎氏



会場の様子



積徹宗氏



伊藤比呂美氏



中島岳志氏



◇設立60周年記念「感謝の会」

2025年10月28日、マ
ンダリンオリエンタル東京
(東京都中央区)にて設立
60周年記念「感謝の会」を
挙行了しました。

各仏教宗派、団体、取引
先様等、関係各位約200
名のご出席をいただき、佐
藤義尚氏(公益財団法人全
日本仏教会副会長)、佐々
木繁幸氏(株式会社ミット
ヨ 取締役専務執行役員)

よりご祝辞を賜りました。
記念映像の放映や仏教伝道
協会にまつわるクイズを行
い、賑やかなうちに閉会と
なりました。

また株式会社ミットヨ
フーズ様のご協力をいただ
き、仏教伝道協会オリジナ
ルパッケージの「精進ゆ
ば」を制作、オリジナルデ
ザインのハンドタオルと共
に記念品として来賓へお贈

りました。
「感謝の会」の挙行にあ
たり、たくさんのご祝意を
頂戴しましたこと、あらた
めて厚く御礼申し上げます。



主催者挨拶 (木村清孝会長)



感謝の会にてお披露目したオリジナルタオル、「精進ゆば」など



上納式での関係者集合写真



ニューイヤーコンサート 仏教讃歌



パイプオルガンの由縁



築地本願寺から贈呈された初代パイプオルガンを活用した記念品

- ・オルガン…中野ひかり、英貴子、板垣敬子、新山恵理
- ・声楽…安藤常光、米山茉莉子
- ・合唱…築地本願寺合唱団 楽友会

◇パイプオルガン上納式・ニューイヤーコンサート
 2025年11月5日、築地本願寺（東京都中央区）において、本堂に新たに設置されたパイプオルガンを披露する上納式が営まれました。仏教伝道協会を設立した沼田恵範氏が米国の教会で耳にした音色に感銘を受け、寺院への寄贈を発願し、これが本取り組みの始まりとなりました。仏教音楽普及のため、1970年に当協会よりドイツのヴァルカー社製オルガンを寄贈し、以来55年にわたり親

しまれてきました。老朽化に伴い2019年に再び当協会より、二代目のパイプオルガンを寄贈することが決まり、コロナ禍を経て、制作・寄贈が実現しました。新オルガンはイタリアのザニン社が製作し、総パイプ数2,566本、三段鍵盤と足鍵盤を備えています。正面には阿弥陀如来の四十八願を象徴する48本のパイプ、六字名号を表す六つの山形意匠を配し、合掌をイメージした木枠が特徴です。上納式では、『四弘誓願』やバッハの『前奏曲

ト長調』などの演奏が奉納されました。
 2026年1月30日にはニューイヤーコンサートを開催。上納後初の本格公演には昼夜あわせて約1,300名が来場し、また築地本願寺より、初代オルガンのパイプ18本を額装した記念モノUMENTが当協会へ贈呈されました。新オルガンの豊かな音域を生かす、クラシックから親しみのある楽曲、仏教讃歌まで幅広い楽曲が披露され、堂内は新たな響きに包まれました。

「仏教聖典」を訪ねて

長年のご協力に感謝

～株式会社東横インへ感謝状贈呈



東横イン黒田麻衣子氏への感謝状贈呈（当協会木村会長より）

仏教伝道協会は、長年「仏教聖典」の頒布を主軸事業のひとつと位置づけ、出版事業の中心として継続的な活動を行ってきました。ホテルなどの宿泊施設はもとより、近年は、寺院、医療施設などに加え、教育機関でも教材として使用されるなど、さまざまな形で活用されています。

設立60周年の節目に、「仏教聖典」頒布活動において最も歴史が長い宿泊施設への寄贈のあゆみを振り返りました。国内外で多くの宿泊施設が客室等に設置して下さっているなかでも、最も多くの「仏教聖典」を受け入れて下さっているのが、日本を代表するホテルチェーン「東横INN」ブランドを展開する、株式会社東横インです。当協会からの寄贈を開始した1990年代から現在に至るまで、全361店舗（2026年2月現在）に「仏教聖典」を設置していただき、さまざまな世代、国籍、利用目的の宿泊者が仏教に触れる機会を作ってくださいています。

設立60周年の節目に、「仏教聖典」頒布活動において最も歴史が長い宿泊施設への寄贈のあゆみを振り返りました。国内外で多くの宿泊施設が客室等に設置して下さっているなかでも、最も多くの「仏教聖典」を受け入れて下さっているのが、日本を代表するホテルチェーン「東横INN」ブランドを展開する、株式会社東横インです。当協会からの寄贈を開始した1990年代から現在に至るまで、全361店舗（2026年2月現在）に「仏教聖典」を設置していただき、さまざまな世代、国籍、利用目的の宿泊者が仏教に触れる機会を作ってくださいています。

長年のご協力に感謝し、また2026年1月に株式会社東横インが設立40周年を迎えられたことを祝し、当協会会長木村清孝より同社代表執行役社長の黒田麻衣子氏へ「感謝状」の贈呈をさせていただきました。

2026年2月には日本国内47都道府県すべてへの出店を達成され、さらに海外5カ国での運営に加え、今後も積極的な出店が予定されています。着実に歩みを進める同社の今後の展開に、ますます大きな期待が寄せられます。

「仏教聖典」頒布活動への



株式会社 東横イン 本社ビル(東京都大田区)

1 出版事業

Publication

Activity 01 2025年度「仏教聖典」頒布状況

2025年度の国内寄贈実績は、ホテルに1,859冊、仏教系教育機関および保育施設に26,623冊を寄贈しました。

和文の「仏教聖典」の改訂版が2024年に刊行され、教育機関に見本をお送りしたところ、入学式や卒業式などの行事で生徒に現在、「仏教聖典」は主

に書店やAmazonなどで販売されていますが、それ以外にも多くの参拝客が集まる有名寺院でも販売されています。2025年は歴史的な円安を背景に、訪日外国人観光客数が過去最高の4,000万人を突破した年でした。多くの訪日外国人が寺院を訪れている影響

で「仏教聖典」を販売して、くださっている寺院では、英語版の販売数の増加が顕著な傾向にあるようです。

現在、私たちは英文「仏教聖典」の改訂版制作に注力しており、新装される英語版もまた、多様な文化圏の人びとの心に深く浸透することを目指しています。

これからも「仏教聖典」を通して「仏教の智慧」を一人でも多くの方へ届けるため、国・地域を問わず活動を続けてまいります。



〈2025年の「仏教聖典」頒布状況〉 1月～12月

	件数	寄贈冊数	販売冊数	
国内	ホテル（新規）	7	1,062	
	ホテル（補充）	30	797	
	病院（新規）	3	4	
	病院（補充）	9	346	
	学校（販売）	9		11,307
	学校（寄贈）	206	26,623	
	寺院（販売）			4,455
	寺院（寄贈）		170	
	一般他販売			172
	書店			1,528
	寄贈		1,006	
国内頒布数計		30,008	17,462	
海外	海外協力機関		15,683	
	ホテル（新規）	1	40	
	ホテル（補充）	5	490	
	その他		19,851	
海外頒布数計		36,064		
総計		66,072	17,462	

Activity 02 「仏教聖典」マラーティー語版寄贈（インド）

2025年10月1～7日に、インド・マハラシストラ州ナグプール市において、「仏教聖典」マラーティー語版を10,000冊頒布しました。

ナグプール市は人口約240万人を有し、そのうち15～20%が仏教徒とされる地域です。1956年10月14日、インド初代法務大臣B・R・アンベードカル博士が、カースト制度によって抑圧された人びとを率いて仏教への集団改宗を行った歴史的な地であり、仏教が社会的解放と人間の尊厳を象徴する存在として、人びとの生活に深く根付いています。マハラシストラ州の人々の母語であるマラーティー語は、仏教への信仰を日常の中で育むための重要な基盤となっています。当協会は、「仏教聖典」マラーティー語版を2023年に刊行、現地

で、人びとの生活に深く根付いています。マハラシストラ州の人々の母語であるマラーティー語は、仏教への信仰を日常の中で育むための重要な基盤となっています。当協会は、「仏教聖典」マラーティー語版を2023年に刊行、現地

公益財団法人 仏教伝道協会 令和7(2025)年度の主な活動



学校への寄贈



「仏教聖典」を読む子どもたち



改宗式での仏教聖典配布



アンバードカル博士肖像

在住僧侶のチャンドラキッティ氏、現地協力企業のRumi Impact社の鶴岡弥生氏、ニラジ・プリー氏のご尽力で、今回初めて現地の印刷・頒布を実現することができました。

「改宗記念日」である10月1〜2日にナーグプール市にある聖地デクシャブリーにブースを設け、巡礼に集った多くの方がたに「仏教聖典」マラーティー語版を頒布しました。また連日チャンドラキッティ氏の紹介で寺院をはじめ、教育機関、病院、セレモニーホールなど、様々な場所で寄贈いたしました。このように現地の僧侶と共に

「仏教聖典」を頒布できたことは、地域社会においても大きな意味を持ち、新聞やテレビでも取り上げられました。最終日には僧院にて閉会式を開催し、頒布に協力してくださった多くの方がたへ感謝の意を伝えました。

今回の活動は、仏教の教えを現地の言葉で伝える上で、大きな役目を果たしました。また現地での印刷と伴う負担を回避し、コスト削減と環境負荷の軽減も実現できました。マラーティー語の仏教書籍を必要とする人びとは、依然として多く存在しています。本



改宗式の風景

活動は、協会が大切にする「つながる」活動の一例として今後も継続したいと考えています。



婦人会への寄贈

03 Activity

「英訳大蔵経」出版状況

「英訳大蔵経」翻訳事業は、第一期翻訳予定139典籍の約79%を終え、2027年の翻訳終了を目指して着実に歩みを進めています。

2025年度は、『十住毘婆沙論』第1章から第18

章までを収録した第1巻と、後半の第19章「四法品」から最終第35章「戒報品」までを収録した第2巻、ならびに天台大師智顛（538-597）の講義を門弟の灌頂が記録し、『法華玄義』『法華文

句』とあわせて法華三大部と称され、天台教学の指南書とされ後世に多大な影響を及ぼしたといわれる『摩訶止観』の第1巻および第2巻の計4冊を英訳大蔵経シリーズとして刊行しました。

『摩訶止観』は全10章から成るとされていますが、第8章以降は説かれておらず、未完の書とされています。本英訳では、第1巻に第1章から第7章第1節までを収録し、第2巻に第7章第2節以下の残りすべてを収録しています。



BDK「英訳大蔵経」シリーズ

04 Activity

「輝け！お寺の掲示板大賞」2025



お寺の掲示板大賞ホームページ



2025年度大賞作品

「輝け！お寺の掲示板大賞」を開催しました。2025年もテレビ、ラジオ、新聞などの多くのメディアに取り上げられ、3か月間の応募期間の間に3,408作品が集まりました。

大賞作品は、鹿児島県・顯證寺（浄土真宗本願寺派）の作品「自分ファーストといふ貧しさ」に決定。仏教の教えを、まず自分事として捉えることは重要で

すが、仏教の慈悲の精神においては、必ずしも自分がファースト（優先）ではありません。多くの人がとが他者への思いやりを持った寛容性が豊かな社会になることを願って、本作品を大賞に選出いたしました。



お寺の掲示板大賞ホームページ



フォトコンテスト選考の様子

Activity **05**

第12回「ほとけの心
フォトコンテスト」

第11回「一日一訓カレンダー」

フォトコンテスト入選作品写真展」

2014年より毎年開催している本コンテストは、第12回を迎えました。今回は、応募総数510件、計2,280枚の作品が寄せられました。

令和7年9月18日に選考委員会を開催し、表紙作品を含む32点の入選作品を選定、入選者には賞状および賞金を贈呈しました。また、入選作品を収録した写真集を2026年3月に刊行し、当協会公式サイトでも無料でご覧いただけます。

■第11回「一日一訓カレンダー
フォトコンテスト入選
作品写真展」

第11回「一日一訓カレンダーフォトコンテスト」の入選作品による写真展を、

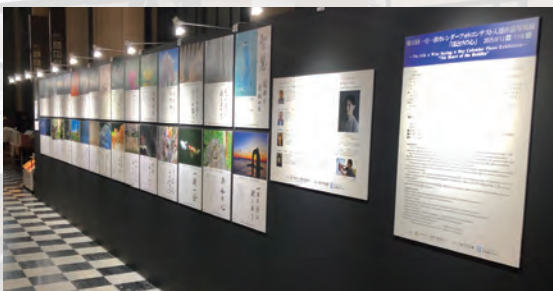
2025年4月11日から5月26日まで瑞巖寺本堂、5月29日から9月7日まで平等院ミュージアム、9月12日から11月6日まで築地本願寺本堂にて開催しました。

来場者数は3会場合計で

過去最多となる約30万人にのぼり、会場内で配布した当協会刊行冊子は61,007冊となりました。多くの方がたに、写真を通じて仏教の名言に親しんでいただく機会となりました。



平等院の展示



築地本願寺の展示

2 助成・表彰事業

Support / Commendation

奨学金事業報告

仏教伝道協会では「外国人留学生奨学金」および「日本人留学生奨学金」（通

称：BDK奨学金）を設置し、仏教研究を志す皆さまを支援する奨学金事業を展開しています。

「日本人留学生奨学金」

「日本人留学生奨学金」は、日本から海外へ渡り

れの研究に日々邁進しています。

幅広い視野を養い、将来の仏教学術振興に貢献しうる日本人の若手研究者を育成したいという願いから、2012年に設立されました。受給者は世界各国にて様々な経験をし、それぞ

第13回目となる2026年の奨学生は、20215年10月に開催された審査委員会により左記の通りに決定、支給を予定しています（2026年3月現在）。

第13回 2026年 受給者

◇小谷 昂久（こたに あきひさ）

■ 受給期間：1年間

（3年間、2026年5月～2029年3月）

■ 所 属：ネパール・カトマンズ大学

ランジュンイエシエ研究所

■ 研究内容：チベットにおける小乗と大乘の関係

■ 指導教授：ジュリア・ステンツェル博士

◇横山 啓人（よこやま あきと）

■ 受給期間：6ヶ月

（2026年10月～2027年3月）

■ 所 属：オーストリア・オーストリア科学

アカデミーアジア文化・思想研究所

■ 研究内容：プラジュニヤーカーラグプタ著『量評釈莊嚴』

「量成就」章における部分全体論の研究

■ 指導教授：パトリック・マカリスト博士

なお、2025年度に受給期間を終了した奨学生の皆さまが、各自の留学期間

について振り返ってくれていますが、ご紹介いたします。

第10回 2023年 受給者

奨学生への質問

- 1 仏教伝道協会の奨学金制度への応募のきっかけ
- 2 受給して最も良かったと思うこと、今後の展望
- 3 留学先の生活で一番気に入っているところ（または驚いたところ）

◇中山 慧輝（なかやま けいき）

■ 受給期間：3年間

（2023年4月～2026年3月）

■ 所 属：ライプツィヒ大学

インド学・中央アジア学研究所

■ 研究内容：『瑜伽師地論』「撰異門分」研究

— 瑜伽行派の経句解釈 —

■ 指導教授：ヨーヴィタ・クラマー教授

1 学部生時代から、毎年研究室のドアに貼られる仏教伝道協会のポスターを見ていたため、当奨学生制度は親しみのあるものとなっていました。周囲には過去に採用された研究者の方たちもおり当制度について全員の方が強く勧めてくださ



ライブツイヒ大学にて主催したワークショップにて (中山氏)

いました。また、妻も同行したため、家族補助があったこと(当時)や、受給期間が最大3年間まで選択できる点も非常に魅力的な点でした。

2 受給して最も良かったことは、仏教伝道協会の親切かつ迅速なサポートの

と、3年にわたり経済的支援を受けながら、留学生生活と研究に専念できた点です。私は過去に1年間の留学経験がありますが、当初は家探しや環境に慣れることに苦労し、短期間で帰国したことを覚えています。今回は問題が生じた際にも

協会の方々に相談するとすぐに対応していただけたため、大変心強く感じました。また、3年という期間があつたことで生活のリズムをつかみ、公私ともに地に足のついた生活を送ることができました。

特に研究面では、様ざまなご縁で知り合った学生や研究者と親睦を深め、共著論文の執筆や講演の機会にも恵まれました。所属機関では授業やワークショップを通じて教育・運営の経験を積み、研究者としての素養も幅広く身に付けることができました。これらを通じて研究の進展だけでなく、人間的にも成長できたと感じています。そして、

クラマー教授ならびにその学生たち、職員の方がたと共に過ごした3年間は、何物にも代えがたい貴重な時間となりました。

今後は、留学で得た研究成果を一冊の本として出版し、培ったネットワークを活かして日本と海外を橋渡しする研究活動を継続していく所存です。

3 ライプツイヒはこじんまりとした街ながら交通の便が良く、文化や歴史が豊かで古い建物も多く残っています。近年は若者が増え、新しい飲食・商業施設も増えつつあり、新旧のバランスが取れた住みやすい街で、夫婦ともに気に入りました。中心の旧市街には生活に必要なものが揃い、大

第12回 2025年

受給者

◆伊集院 栞 (いじゅういんしおり)

■ 受給期間…6ヶ月間

(2025年4月～2025年9月)

■ 所 属…オーストラリア科学アカデミアアジア文化・思想研究所 (留学当時)

■ 研究内容…アーナンダガルバ著 『ヴァジュラジュヴァーローダヤ』の研究

■ 指導教授…ニーナ・ミルニヒ教授 (現在ウィーン大学)

(現在ウィーン大学)

また、仏教学の環境も充実しており、所属研究所にはインド学とチベット学があり、近くのザクセン科学アカデミーにも仏教美術の研究拠点があります。ライブツイヒは仏教研究に適した場所のひとつだと思います。冬は日照時間が短いため、晴れの日は多くの人が外で日光浴を楽しむ光景も印象的でした。今後も本奨学金制度を通じ、海外で挑戦される方が増えることを願っております。本当にありがとうございました。

1 本奨学金制度については以前より認識していましたが、子供を連れての留学は難しいと考えており、これまで具体的な応募には至りませんでした。しかし、夫の在外研究が決まったことをきっかけに、留学を現実に考えるようになり、

本制度への応募を決意しました。

2 本奨学金の受給により、経済的な不安が軽減され、安定した研究環境を確保できたことが最も大きな利点です。また、海外の研究者と直接交流する機会を得たことで、自身の研究能力を

見直し、今後の方向性について考える契機となりました。さらに、子供を伴って海外で研究を行うことについて具体的な見通しを得られた点も重要でした。今後は、将来的に再び在外研究を行うことも視野に入れつつ、研究成果の深化と発信

に努めていきたいと考えています。

3 特に印象的なのは、ウィーン大学図書館の充実した研究環境と開かれた利用体制です。オーストリア

在住者であれば、図書の貸出や電子ジャーナルへのアクセスを含めて利用できる点は非常に恵まれていると感じました。また、ウィーンは華やかな都のイメージ

がありますが、実際には自然が豊かで屋外活動も充実しており、研究の合間により気分転換ができる点も魅力的です。

「外国人留学生奨学金」

外国人留学生奨学金は、海外から来日し仏教について研究をする外国籍の研究者または学生に対して、それぞれが自国に戻り、日本で学んだ仏教精神、文化等

を学問を通じて、弘く世界に伝えていただきたいとの願いから平成3（1991）年に外国人留学生奨学金が設立されました。

第35回目となる2026年の奨学生は、2025年10月に開催された審査委員会により左記の通り決定、支給を予定しています（2026年3月現在）。

第35回 2026年 受給者（申込順）

◇ジェイコブ・モーター

- 研究予定内容…他心の認識に関するダルマキールティの思想―現代の心の哲学との対話における『サントナーナ―ンタラシッディ（他心相続成就論）』の研究
- 所属予定機関…京都大学人と社会の未来研究院
- 指導予定教授…出口康夫教授

◇アハラワット・シャーシー

- 研究予定内容…マハーヴィハラ形成…東インドにおける僧侶と在家者のネットワークと中世仏教の興隆
- 所属予定機関…三重大学
- 指導予定教授…久間泰賢教授



IKGAでのワークショップ（伊集院氏）

令和7(2025)年度の主な活動

なお、2025年度に受給期間を終了した奨学生の皆さまが、各自の留学期間について振り返ってくれます。

第24回 2024年 受給者

奨学生への質問

- 1 仏教伝道協会の奨学金制度への応募のきっかけ
- 2 受給して最も良かったと思うこと、今後の展望
- 3 日本の生活で一番好きなところ（または驚いたところ）

いますので、ご紹介いたします。

春に博士論文を提出する予定があり、2026年の春に主にアメリカの大学のポストドクなどに応募するつもりです。

◆ Jackson Cole Macor

(メイコー・ジャクソン・コール)

■ 受給期間：1年間

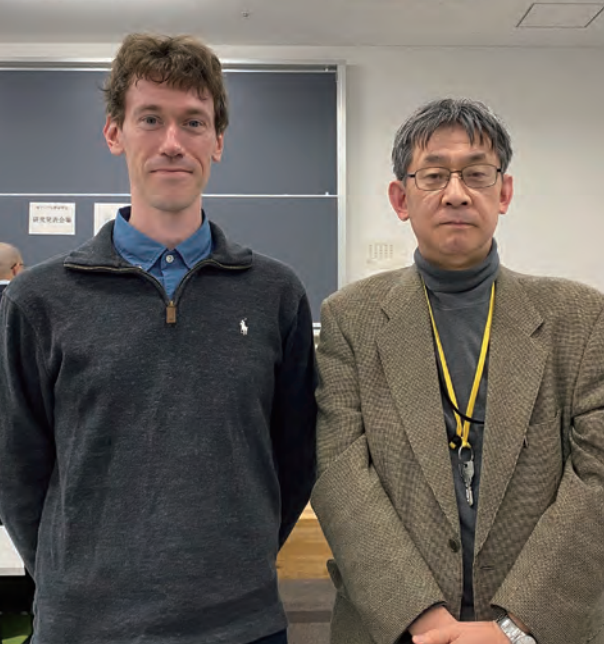
(2024年9月～2025年8月)

■ 所属機関名：駒澤大学

■ 研究内容：東アジアの三論学派・吉蔵と

その『中観論疏』

■ 指導教授名：奥野 光賢 教授



メイコー・ジャクソン氏 (左) 奥野光賢氏 (右)

第35回 2025年 受給者

◆ Bo Pang (ボン・ハク 龐博)

■ 受給期間：1年間

(2025年4月～2026年3月)

■ 所属機関名：東京大学 東洋文化研究所

■ 研究内容：吉蔵因縁思想研究

― 『中観論疏』を中心に―

■ 指導教授名：柳 幹康 准教授

1 私は北京大学の博士課程で、中国仏教思想、特に吉蔵『中観論疏』における「因縁」思想を研究しています。研究を進める中で、この問題をより深く考える

ためには、日本の研究蓄積に直接触れながら研究生活を送ることが重要だと感じることができました。日本には関連する先行研究や資料が多く、自分の課題を掘

り下げるために非常に適した環境があると考えていたからです。そのような中で、日本に留学していた先輩を通じてBDK外国人留学生奨学金のことを知りました。仏教研究に取り組む留学生を支えるこの制度は、自分にとって研究環境を整えるうえで大きな支えになると同時に、日本での研究経験をより実りあるものにするための大切な機会になると感

1 私のアメリカの大学の先輩が何年前かに受けたことを知っており、バークレーで勉強していた時にも、長く日本で研究ができるように応募するつもりでした。

2 仏教伝道協会の奨学金を天台宗の文献学などが気になりました。2027年の

3 生活の面から言えば、日本は安全で、インフラの質が高いので、住みやすいです。学問の文化のことに関しては、学者がちゃんと互いに論文を読んだり評価したりするので、欧米より仏教学の分野がきちんと成り立っているという印象があります。

じ、応募しました。

2 この奨学金を受給して最も良かったと思うのは、留学生活の基盤が支えられたことで、研究を単に継続するだけでなく、より広い視野の中で組み立て直すことができた点です。留学中は、日々の文献読解や指導教員との面談を積み重ねながら、自分の研究にとつて本当に必要な資料や視点を少しずつ整えていくことが重要でしたが、BDKのご支援によつて、そうした基盤を保ちながら落ち着いて研究に向き合うことができ

ました。

その結果、これまで十分に扱いきれていなかった関連資料や周辺領域にも視野を広げることができ、個別の論点だけでなく、研究全体の構成や問題の立て方そのものを見直す機会が得られました。また、日本での生活や現地での見聞を通じて、日本仏教文化の具体的な広がりや、中日仏教文化交流のあり方についても、以前より立体的に考えられるようになったと感じています。

今後は、こうした留学中

の経験を踏まえて博士論文

をさらに深めるとともに、将来的には吉蔵を中心とする漢伝中観思想の独自性を、龍樹中観思想全体の展開の中に位置づけながら、より総合的に明らかにしていきたいと考えています。

3 日本での留学生活の中で特に印象に残っているのは、仏教が特別な場面に限られたのではなく、日常生活や地域社会の感覚の中

に自然に息づいていることです。実際に生活してみると、ことで、仏教文化が人びとの習慣や行事、ものの受け止め方の中に静かに浸透していることを感じました。同時に興味深かったのは、そのような伝統が単に保存されているだけではなく、現代社会の変化の中で新たなあり方を模索しながら受け継がれている点です。これは文献を通して知

第35回 2025年 受給者

◆Amina Sabyr (サビール・アミナ)

■受給期間：1年間

(2025年4月～2026年3月)

■所属機関名：広島大学 人間社会科学研究所

■研究内容：チベットの思想家達の視点から見るパーヴィヴェーカの思想：ジクメ・タムチュ・ギャムツォ

作『了義未了義入門』の分析

■指導教授名：根本 裕史 教授

1 仏教伝道協会の奨学金に

応募した時点で、私は広島大学の博士課程の3年目を修了していましたが、研究を進める中で、博士論文を完成させるためにはさらに時間が必要であると感じるようになりました。そのよ

うな中で、指導教員である

根本裕史教授および吉水千鶴子教授より仏教伝道協会の奨学金制度をご紹介いただきました。仏教伝道協会による寛大でかつ大変貴重なご支援のおかげで、研究に専念することができ、計

画通りに博士論文を完成させることができました。心より感謝申し上げます。

2 私の研究分野はインド・チベット仏教であり、日本はこの分野において有数の研究拠点の一つです。そのことが、日本に来て博士課程に進学するきっかけとなりました。具体的には、ツォンカパの『了義・了義善説心髓』に対する示唆に富む註釈書の文献学的・哲学的研究に取り組みました。

博士課程在籍中には、日本印度学仏教学会



龐博氏(左) 柳幹康氏(右)



根本裕史氏（左）サビール・アミナ氏（右）

(JAIBS) や日本チベットの学会 (JATS) などに参加し、国内外の研究者と交流する機会を得ました。こうした知的交流と、広島大学の研究環境は、研究の発展に大きく寄与しました。この過程において、仏教伝道協会のご支援により1年間研究に専念することができ、理解を深めることができました。その結果、博士課程で得た知見を集大成し、博士論文を完成させることができました。

今後は研究を継続し、将来的には教育職を目指すことにも、本分野への貢献と次世代への継承に努めてまいります。

3 私が在籍していた広島大学のキャンパスは西条という小さな町に位置し、私は大学のすぐ裏手の静かな田園地域に住んでいました。素晴らしい環境の中で、田舎の中を自転車で行き、春から秋へと移り変わる稲の色を眺め、夜空の星や蛙の合唱に耳を傾ける日々を過ごしました。乾いた草が焼かれるほのかな香りを含んだ新鮮な空気も、今でも鮮明に思い出されます。

日本の田舎、とりわけ広島での暮らしは、これからも心の中で特別な存在であり続けると思います。美しい風景を求めて各地を訪れた中でも、自然の魅力は強く印象に残りました。また、自然だけでなく、日本社会のさまざまな側面にも感銘を受けました。地域ごとの多様な文化や、芸術や哲学への敬意、人びとの優しさや信頼関係が挙げられます。特に、温かく迎え入れてくださったホストファミリーは、日本での家族のような存在となりました。

※「日本人留学生奨学金」および「外国人留学生奨学金」について、過去の受給者実績や今後の募集についての詳細は、公式サイトをご確認ください。

第59回「仏教伝道文化賞」贈呈式 (於 仏教伝道センタービル) 2026年3月16日



第59回受賞関係者

仏教伝道文化賞受賞者
 河野大通老師



2026年3月16日、仏教伝道センタービル(東京都港区)にて「第59回仏教伝道文化賞」の贈呈式ならびに祝賀披露宴を執り行いました。2025年7月の選定委員会にて選出した受賞者を祝うべく、会場には55名の参列者が集いました。「仏教伝道文化賞」を受賞された河野大通氏(臨済宗妙心寺派元管長)は、長年にわたる戦地での慰霊活動や人道支援、震災復興の実践など、宗教者としての生き方を身をもって示された功績が高く評価されました。

小川太喜氏



当日、名代として出席された小川太喜氏(臨済宗妙心寺派花園会本部長)は「老大師個人への榮譽であると同時に、仏教が現代社会で果たすべき使命への大きな励みとなる」と、河野氏の想いを語られました。また、「沼田奨励賞」は、雄谷良成氏(社会福祉法人佛子園理事長)が受賞。世代や障がいの有無、国籍を超えて誰もが共に生きる「ごちやまぜ」の福祉を実現してきた歩みが表彰されました。雄谷氏は「日々の活動を通じて、多様な方々から仏の道を教わっている。この受賞を糧に精進を続けたい」と感謝と決意を述べられました。両氏のさらなるご活躍と、仏教文化の益々の発展が期待される贈呈式となりました。

雄谷良成氏



奨励賞贈呈 雄谷良成氏



文化賞贈呈 小川太喜氏

公益財団法人 仏教伝道協会

令和7(2025)年度の主な活動

2025年度「助成金事業」報告

仏教伝道協会では、当協会の公益事業目的に賛同し、国内外にて積極的な活動を行っている個人または団体を支援するため、活動助成金を交付しています。

令和7(2025)年度は、32件の団体または個人から申請があり、公正な審査の上、18件の団体または個人への助成金交付が決定しました。当協会の「助成金制度」についての詳細は、公式サイトをご確認ください。

<https://www.bdk.or.jp/bdk/jyosei/jyoseikin.html>

B. 海外協力機関活動支援助成金

団体名	申請事業内容
BDK Asia	仏教聖典の頒布活動
BDK Taiwan	仏教伝道協会の出版物の頒布
BDK Thailand	仏教聖典の頒布活動

C. 団体支援助成金

団体名	申請事業内容
日本印度学仏教学会	情報化対応を介した国際的学術交流及び文化貢献の促進事業
特定非営利活動法人鎌倉てらこや	鎌倉てらこやー大学・寺社・行政・市民ボランティアの協働による地域コミュニティ再興事業ー
公益財団法人中村元東方研究所	公益財団法人として研究調査事業・研究助成事業・顕彰事業・普及事業
特定非営利活動法人 全国てらこやネットワーク	てらこやネットワーク事業

D. 事業支援助成金 - D-1. 仏教精神・文化普及活動及び人道支援活動

団体名	申請事業内容
公益財団法人全国教誨師連盟	教誨師研修事業
H1法話グランプリ実行委員会	H1法話グランプリ2025
一般財団法人お寺と教会の 親なきあと相談室	「親なきあと」問題を解決するためにお寺と教会を活用した「地域コミュニティ」の形成プロジェクト
第47回全日本仏教徒会議大阪大会 実行委員会	第47回全日本仏教徒会議大阪大会
公益社団法人シャンティ 国際ボランティア会	紛争下で生きるミャンマーの子どもたちへの教育支援活動～仏教の教えを伝える紙芝居出版～
The Buddhist Society	The Buddhist Society 100th Anniversary Memorial Lecture Series On Japanese Buddhism

D. 事業支援助成金 - D-2. 仏教学術振興活動

団体名	申請事業内容
龍谷大学 龍谷ミュージアム	2025年度 秋季特別展「仏教と夢」
公益財団法人日独文化研究所	日独国際ワークショップ「仏教の〈悲心〉と現代世界」
ハワイ仏教文化財研究会	ハワイ日本仏教寺院の文化財資料を中心とした研究と保存、継承
日本仏教看護・ビハーラ学会 第21回年次大会実行委員会	日本仏教看護・ビハーラ学会 第21回年次大会
Numata Center for Buddhist Studies (ハンブルク大学沼田仏教 学センター)	ハンブルク大学沼田仏教学センターにおける仏教講座運営

3 啓蒙活動・支援事業・仏教講座の開催

Enlightenment / Support / Buddhism course

Activity 01 FM大阪「笑い飯哲夫のサタデー★ナイト仏教」放送開始から8年目に突入！

毎週土曜日夜24時15分から放送しているラジオ番組「仏教伝道協会Presents 笑い飯哲夫のサタデー★ナイト仏教」はシーズン8を迎えました。僧侶と著名人のゲストを月替わりで迎え、笑い飯哲夫氏とのトークを通じてリスナーの皆さまに、仏教を身近に感じていただいています。ラジオ放送の他にPodcast（ポッドキャスト）やYouTube（YouTube）でも配信を行うことで、リスナー層が拡大。番組をきっかけに仏教を知り、日常生活に仏教の考え方を取り入れるようになったという声が、国内のみならず国外からも多く寄せられています。また、病氣治療中のリスナーからのメッセージを放送した後は、励ましの声が届くなど、仏教を通じてラジオならではの交流の場に成長しました。



哲夫氏（左）小泉今日子氏（右）



哲夫氏（左）佐久間宣行氏（右）

2025年度出演ゲスト（敬称略）

4月	南直哉 （曹洞宗恐山菩提寺）	10月	光永圓道 （比叡山延暦寺一山 大乘院）
5月	堀井美香 （フリーアナウンサー）	11月	チャンス大城 （お笑い芸人）
6月	白川密成 （高野山真言宗栄福寺）	12月	小池陽人 （真言宗須磨寺派須磨寺）
7月	古舘伊知郎 （タレント）	1月	佐久間宣行 （プロデューサー）
8月	釈徹宗 （浄土真宗本願寺派如来寺）	2月	平岡聡 （仏教学者）
9月	小泉今日子 （歌手・俳優）	3月	内田也哉子 （エッセイスト）

Activity 02

仏教伝道協会「花まつり」2025

(於 仏教伝道センタービル) 2025年3月21日～4月8日



本堂での坐禅

より励ましのお言葉を頂戴した後、巨島善道氏（臨済下（臨済宗方広寺派管長）

昼食後には、安永祖堂猥による提唱「臨済録」を受

第53回「実践布教研究会」を、臨済宗方広寺派大本山方広寺（静岡県）において開催いたしました。宗派を超えて僧侶・寺族ら33名が参加し、「臨済禅師の仏道く禅の教えに学ぶ」をテーマに研鑽を深めました。

宗方広寺派教学部長）による坐禅指導が行われました。二日目は、朝課の後に禅堂での坐禅を実施。柳幹康氏（東京大学准教授）による講義「禅の系譜とその教え」と横田南嶺猥下（臨済宗円覚寺派管長）による講義「これからの布教伝道のあり方」を拝聴しました。

Activity 03

第53回「実践布教研究会」

(於 臨済宗方広寺派大本山方広寺)

2025年6月10日～12日

公益財団法人全日本仏教会主催「第8回花まつりデザイン募集」の入選作品原画20点を、仏教伝道センタービル1階ロビーに展示いたしました。

それぞれの想いや願いが込められた色彩豊かな作品の展示に加え、公益財団法人全日本仏教婦人連盟より「花の種」を、大和証券株式会社よりポスター大賞作

品がプリントされた「サクマドロップス」をご提供いただき、来場者に配布いたしました。



分科会の様子

講し、その後、法山高秀氏（臨済宗方広寺派宗務総長）のご案内で諸堂を拝観いたしました。
分科会では、「AI時代の布教伝道」をテーマに参加者同士で意見を交わし、大変充実した研究会となりました。



講義（柳幹康氏）



講義（横田南嶺祝下）



諸堂拝観（法山高秀氏）



午後の部・桜梅桃李

04 Activity

書道パフォーマンス2025 （於平等院） 2025年6月27日

平等院（京都府宇治市）での写真展開催期間中に、鈴木猛利氏（書家）による書道パフォーマンスを実施しました。本企画は2017年より毎年開催、今回で9回目となり、平等院の初夏の風物詩となっています。午後の部では「無分別智」、午後の部では「桜梅桃李」の文字を揮毫し、会場を大いに沸かせました。

書道パフォーマンスの様子は、YouTube（ユーチューブ）の仏教伝道協会チャンネルにてご覧いただけます。



仏教伝道協会
YouTube
チャンネル

Activity 05 「みんなのまちの古いたてものにごきごき」 小学校副教材 2025年6月～9月



副教材表紙

専門的な分野について、学校に外向いて授業をする「出前授業」企画の第一歩として、小学3・4年生向けの副教材を作成いたしました。身近にある古い建物を入り口として、お寺や仏教に興味をひく内容となっており、関東、関西を中心に

に204校、約2万部を配布いたしました。

配布した副教材は、社会科の「わたしたちのまち」や「古くから残っているもの」などの授業でご利用いただけます。活用してくださった学校や保護者からのアンケート結果により、

仏教にかかわる授業を学校へ外向いて実施することへの可能性が確認できたため、今後は、学校の授業で扱われる仏教の歴史的な部分に加え、仏教と日本文化の関わりを学んだり、仏教の教えに触れる機会を提供できるように「出前授業」の実施を検討してまいります。

Activity 06 「ブツピ！」 動画配信コンテンツプラットフォームスタート

2025年度は、新たなオンライン動画配信プラットフォームとして「ブツピ！」の運営を開始いたしました。仏教の教えや仏教的な暮らしのヒントを、動画コンテンツとして配信。視聴者は会員登録のうえ、パソコンやスマートフォンなどのデバイスで、購入後30日間いつでも視聴することが可能です。オリジナル動画「ワタシのコ

コロのトリセツ」では日常生活で感じる悩みや心のモヤモヤに対して、仏教的な考え方や向き合い方のヒントをフリーアナウンサーの堀井美香氏をはじめ、多様な出演者がトーク形式で語り合い、視聴者が自身の感情を見つめ直す機会を提供しました。

その他、当協会設立60周年記念シンポジウム「だい

すき仏教」、定例講座「イチから学ぶ日本の仏教」、 「仏教を英語で学ぶ会」などを開催後の一定期間購入いただけるようになり、開催時に参加が叶わなかった方や、あらためて学びを深めたい方が仏教の教えに触れ、活かす機会を創出しています。今後もさまざまなプログラムを配信していく予定です。



Activity 07

「仏教を英語で学ぶ会」2025 (於 仏教伝道センタービル)

2025年4月～12月 月1回全9回開催

「仏教を英語で学ぶ会」は 2011年に始まり、これまで多くの方がたに様々な形式で英語を通じた仏教学習の機会を提供してまいりました。

蔵野大学講師)、伊藤真氏(翻訳家)、マシュー・マクマレン氏(南山大学准教授)が、それぞれ3回の講義を行いました。

2025年度は、アレクサンダー・オニール氏(武蔵野大学)の講義を通してお



伊藤真氏

仏教の大きな流れと主要な教えを英語で学ぶ機会を提供しました。2025年度は講義をすべて英語で実施

し、英語テキストを用いることで「英語で読み、英語で考える」学習環境を整えました。英訳經典の読解により難易度が高くなるのではないかと危惧されましたが、講師による丁寧な解説や写真資料の活用により理解が深まり、「英語の方が分かりやすい」との声も多

く寄せられました。2026年度以降も本講座を継続し、英語で仏教を学ぶ楽しさを広くお届けしてまいります。

※最新情報は当協会公式サイト・SNSをご確認ください。

Activity 08

「願いの一字コンテスト」 (於 浄土宗大本山増上寺)

新年の願いを漢字一字に込めて応募する「願いの一字コンテスト2026」を、昨年引き続き開催しました(公募期間:2025年10月15日～12月15日)。

応募いただいた約60点の中から「柔」の一字を選定、執着や偏った考えを手放し、心のしなやかさと調和の大切さを社会に伝えたいとの願いが込められています。

2026年1月5日、大本山増上寺大殿前広場にて



揮毫する鈴木猛利氏

令和7(2025)年度の主な活動



鈴木猛利氏（左）と2026年の一字「柔」（松丸壽雄常務理事：右）

2026年の一字「柔」を発表、鈴木猛利氏（書家）に揮毫していただきました。中村瑞貴氏（増上寺執事）は、仏さまの光に触れることで身も心も柔らかくなる「心身柔軟」の経文を紹介、柔和な笑顔の絶えない一年になるように願いを込めて挨拶されました。願いの一字は、当日の夕刻まで増上寺境内に展示、多くの方が、揮毫された書との記念撮影を楽しまれました（現在は仏教伝道センタービル1階ロビーにて展示）。

開催月	宗派	講師名（敬称略）
第1回	天台宗	小野 常寛（天台宗普賢寺 住職）
第2回	真言宗	小池 陽人（真言宗須磨寺派大本山須磨寺 寺務長）
第3回	浄土宗	東海林良昌（浄土宗雲上寺 住職）
第4回	浄土真宗	杉浦 道雄（真宗大谷派称名寺 住職）
第5回	時宗	渋谷 真之（時宗長徳寺 住職）
第6回	日蓮宗	小山田和正（日蓮宗法永寺 住職）
第7回	臨済宗	星 大晃（臨済宗妙心寺派善應寺 住職）
第8回	曹洞宗	千葉 公慈（東北福祉大学 学長）



曹洞宗 千葉公慈氏



天台宗 小野常寛氏

日本仏教の宗派を1宗派ずつ取り上げて、基本的な教えや宗祖の生涯を解説する「イチから学ぶ日本の仏教」を、宮城県仙台市にて開催いたしました。

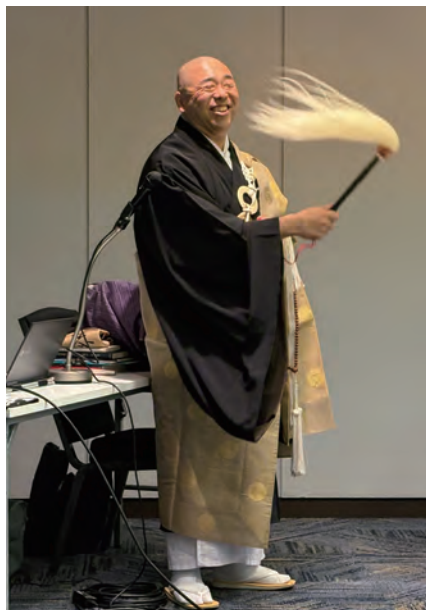
**「イチから学ぶ日本の仏教」
2025年は仙台で開催！**

Activity in 仙台 「イチから学ぶ日本の仏教」

これまで当講座は、東京、大阪、名古屋と開催場所を変え、様々なエリアの皆さまにご参加いただき、ご好評いただきました。



時宗 渋谷真之氏



臨濟宗 星大晃氏

した。2025年度は、初の東北エリアでの開催となり、これまで以上に多くの地域の皆さまに受講いただきました。

参加者からは「仏の学びが初心者の私でもとてもたのしく笑いながらの参加でした」、「ネットでは知ることのできないことが多かった」、「パワーポイント

※2026年度の開催についての最新情報は当協会公式サイト・SNSをご確認ください。

トの作りが上手で内容が頭に入ってきた感じが良かった」などのご感想をいただきました。



仏教ヨガ

「仏教ヨガ講座」 (於 仏教伝道センタービル)

「ウェルネス (Wellness)」は「健康 (Health)」より広い概念で、社会的・身体的・精神的により良く生きることを意味します。

当協会が2025年度から取り組みをス

Activity 10 「ウェルネスプロジェクト」始動!

カラダから仏教を伝える

ターゲットさせた「ウェルネスプロジェクト」では、仏教の智慧にふれながら、健康や心、食や暮らしを見つめ直し、日々を心地よく調えていくための学びと体験を提供します。

高野山真言宗僧侶でアシタンガヨガ講師のMO氏による「仏教ヨガ講座」は5年目を迎えました。

ヨガのレッスン前には必ず三帰依文をお唱えし、仏教に馴染みがない方にもわかりやすい法話をいただきます。そのあとアシタンガヨガのレッスンへと入っていきます。

基本的なポーズからスタートし、徐々に難易度が高くなっていきますが、初心者でも丁寧にフォローしてもらえらるため、リピーターも多い人気講座です。

「特別坐禅会」

(於 曹洞宗大本山永平寺)

2025年8月30～31日



特別坐禅会

ヨガと坐禅と精進料理を
体験する「特別坐禅会」
を、曹洞宗大本山永平寺
(福井県)にて2日間にお
たり開催しました。
ヨガ講師に綿本彰氏を迎
えた本会には、日本全国か
ら多くの方のお申し込ただ
き、ヨガ、諸堂拝観、精進
料理、坐禅、西田正法老師
(永平寺副監院)による講
話、朝のお勤めなどを、永
平寺の素晴らしい空間の中
で体験していただきました。

Activity 11

「エンジョイ!カバディ」

(於 浅草小学校体育館等)

2025年4月～2026年3月 全5回

「ウェルネスプロジェクト」の一環として、カバディ
体験会「エンジョイ!カバ
ディ」を浅草小学校体育館
(東京都台東区)にて、初め
て開催いたしました。
カバディは日本ではまだ
馴染みの薄い競技ですが、
アジア大会の正式種目であ
り、インドでは国技とし
て広く親しまれています。
紀元前にはお釈迦様が王子
時代に親しんでいたとも伝
えられ、仏教とも深い歴史
的つながりをもつスポーツ
です。本企画では「仏教×
スポーツ」という新たな切
り口から、僧侶であり元カ
バディ日本代表でもある清
水谷尚順氏(浅草寺善龍院
住職)の指導のもと、年間
5回の体験会を実施し、楽
しみながら身体を動かす中
で、自然と仏教精神に触れ
ていただく機会を創出しま
した。



参加者に解説をする清水谷氏(於 円満寺)

また、2026年2月7
日には天台宗別格本山円満
寺(神奈川県横浜市)の境
内を会場に、子ども向け体
験会を開催し笑顔と歓声に
たなつながら生まれてま
しました。
包まれました。お寺を中心
に世代を超えた交流の場と
なり、多くの方がたとの新
たなつながら生まれてまし
た。

2023年度より開催している本講座は、2025年度は「ウエルネスプロジェクト」の要素も加え、全2回を実施。精進料理に精通する僧侶とレストラン料理長のコラボレーションにより、食を通じてこころとからだの健康を考える機会となりました。

第1回目は、「スイーツ」に特化した初の企画として開催。「スイーツ僧侶」として人気の木原祐健氏（浄土真宗本願寺派光明寺）を講師に迎え、「精進料理とは」の講話の後、前半は木原氏考案のレシピ3

品を境田剛樹氏（三田菩提樹料理長）による実演で学び、わらびもちの試食も行いました。後半は食事の心構えについてのお話と希望者へのお悩み相談、さらに創作精進スイーツのアフタヌーンティーを楽しみました。

を杉山稔氏（東京グランドホテル洋食料理長）の実演で学び、長芋のお粥の試食も行いました。後半は椅子坐禅で心を調えた後、「精進料理とは」のお話を経て、普茶料理を洋風にアレンジした創作精進料理コースを味わいました。

20〜80代まで幅広い年齢層の方がたが参加し、初体験の方から経験者まで和やかな雰囲気の中で学ぶ姿が印象的でした。参加者からは「スイーツと精進料理、普茶料理と洋食という新鮮な組み合わせに驚いた」「僧侶と料理人による学びの場は他にはなく、貴重な体験だった」といった声が寄せられ、多くの学びと気づきを得る機会となりました。

※2026年度の開催についての最新情報は当協会公式サイト・SNSをご確認ください。



第1回：講師（境田氏：左、木原氏：右）



第2回：「精進料理とは」について話す秦氏

第2回目は、初めて黄檗宗から講師を迎え、大本山萬福寺（京都府宇治市）にて典座も務める秦崇志氏（黄檗宗宝善院副住職）を講師に迎え、前半は秦氏考案のレシピ3品

各回講師、場所、レシピ、コース ご紹介（敬称略）

2026年1月24日
 仏教伝道センタービル・三田菩提樹
 木原祐健、境田剛樹

第1回

- ◆レシピ：胡桃の黒糖キャラメリゼ、ぜんざい、わらびもち
- ◆アフタヌーンティーセット：うめもどき 菩提樹風、白玉ぜんざい、柚子香る寒天よせ苺、金柑、白キクラゲ入り、豆乳杏仁豆腐 キウイソースがけ、りんごボートのフルーティおはぎ 金木犀の香り、小豆餡の胡麻団子、胡桃の黒糖キャラメリゼ、マンゴーココナッツ団子、蓮根とゆばのクリスピーチップス、大根餅 山吹ごぼり入り



2026年2月21日
 曹洞宗宗務庁・東京グランドホテル
 秦崇志、杉山稔

第2回

- ◆レシピ：りんごの天ぷら、雲片、長芋のお粥
- ◆コース：林檎のベニエとサラダムスクラン、豆腐とズッキーニの生春巻き ピーナツソース、雲片風食べるスープ、胡麻豆腐のペリーニ風



Activity 13

「Tokyo Temple Run」

走って感じるお寺の魅力

「エンジョイ！カバデイ」に続き、2025年度の「ウェルネスプロジェクト」の新企画として、都内の寺院を巡るランニングイベント「Tokyo Temple Run」を初開催しました。港区内の4カ寺をチェックポイントとする約10kmのコースを、講師先導のもとグループで走る初の試みです。



浄土宗大本山増上寺（第1チェックポイント）



走る前の心得について話す小松氏

講師には、僧侶ランナーとして人気の小松祐嗣氏（日蓮宗武井坊住職）を迎えました。参加者は仏教伝道センタービルに集合し、走る前の心得を学んだ後、ウォームアップを経て出発。浄土宗大本山増上寺、高野山真言宗総本山金剛峯寺、高野山真言宗総本山金剛峯寺、曹洞宗泉岳寺の各チェックポイントで給水休憩を取りながら走って巡り、最後は同ビルに戻ってクールダウンと講話で締めくくりました。



浄土宗本願寺派光明寺（第2チェックポイント）



高野山真言宗総本山金剛峯寺 高野山東京別院（第3チェックポイント）

当日は10代から60代まで幅広い層の方が参加し、初心者から経験者までが一体となって走りました。坂道でも励まし合いながら笑顔で進む姿が印象的で、天候にも恵まれ、寺院参拝に加え、各チェックポイント間にも多くの寺院が点在する港区の新たな魅力



次のチェックポイントを目指す参加者



曹洞宗泉岳寺（第4チェックポイント）

※2026年度の開催についての最新情報は当協会公式サイト・SNSをご確認ください。

を発見する機会となりました。もう一度同じコースを走ってみたいという声も多く寄せられました。

令和7(2025)年度 「死」を考えるシンポジウム

各講演概要

第1回

テーマ：「死んだらどうなる？」

於 仏教伝道センタービル 2025年7月25日

「ウェルネスプロジェクト」の一環として「死」について学びを深めることでより良い「生き方」を考える全3回のシンポジウムを開催いたしました。

第1回目は「死んだらどうなる？」をテーマとして、神道・キリスト教・仏教の視点から死後の世界や文化を紹介していただき、多角的に考える

機会となりました。池田奈津江氏（弥生神社権禰宜）、長谷川（間瀬）恵美氏（桜美林大学教授）による講演の後、高瀬顕功氏（大正大学准教授）を交えたクロストークを行い、宗教ごとに異なる死生観や講師の観点を共有することができました。参加者からは「講師の方々それぞれの死生観に触れられたことで、悩み続ける大切さを改めて感じられました」などの声が寄せられました。



左から高瀬氏、長谷川（間瀬）氏、池田氏

第2回

テーマ：「もう一度会いたいと思ったときに」

於 仏教伝道センタービル 2025年11月28日

「死」を考えるシンポジウム第2回目は、「もう一度会いたいと思ったときに」をテーマに開催いたしました。

大切な人を失った悲しみと、どのように向き合うのか、つらい時期を乗り越えるための手がかりを探ることを目的に、日本のグリーフケア活動を牽引する二人の専門家である坂口幸弘氏（関西

学院大学教授）、高木慶子氏（上智大学グリーフケア研究所名誉所長）をお招きしました。それぞれの立場から宗教・医療・心理にまたがる多角的な視点が示され、具体的な事例とともに語られた死生観は参加者に深い学びをもたらしました。アンケートには「死にも希望を持てた」「また会えると感じられた」といった声が多く寄せられました。



左から高瀬氏、高木氏、坂口氏

第3回

テーマ：「いのちを選ぶということ」

於 仏教伝道センタービル 2026年3月27日

「死」を考えるシンポジウム第3回目は、「いのちを選ぶということ」をテーマに開催いたしました。

安楽死・尊厳死をめぐる倫理や社会制度の課題を自分事として考えるため、生命倫理学者の小林亜津子氏（北里大学教授）と、母が安楽死を選んだ経験を持つジェシー釋萌海氏（真宗大谷派高雲寺住職）をお招きしました。異なる立場からの発題により、参加者は医療倫理の原則を踏まえつつ、大切な人の選択にどう向き合うかという葛藤を実感しました。最終的に「自分ならどうするか」という問いを共有しました。アンケートでは、「安楽死と呼ばれる状況に細やかな定義の違いがあること」「引き続き死について慎重に勉強

したい」などの声が多く寄せられました。

「死」を考えるシンポジウム全3回は、当協会の動画販売サイト「ブツピ！」にて好評発売中です。



左から高瀬氏、釋氏、小林氏



ちょっと、ひと休み



「仏教聖典」名入れ販売開始

落慶法要や継職法要など 節目に贈りたい貴寺名入りの「仏教聖典」

「仏教聖典」の表紙に寺院等の名前をお入れして販売するサービスを開始しました。

落慶法要や継職法要など大切な節目に檀信徒の方がたとのご縁を深める記念品、贈答品として多くの寺院より好評の声をいただいています。

仏教の教えとともに寺院の想いを届け、特別なつながりを作る名入り「仏教聖典」をぜひご利用ください。皆さまのお申し込みを心よりお待ちしております。

◎詳細・概算お見積もりは
公式サイト内特設ページを
ご確認ください



檀信徒とのご縁を深める

名入れ 「仏教聖典」ご案内

落慶法要や継職法要など
節目に贈りたい貴寺名入りの「仏教聖典」。
全世界で1000万部以上読まれている一冊を手渡すことで
檀信徒とのかかわりを深め、未来へのご縁をつなぐ機縁となります。

背表紙に貴寺名が入ります。 表紙に貴寺名が入ります。 <上製本の場合> カバーを外した本体にも
箔押しプリントで
貴寺名が入ります。

公益財団法人 仏教伝道協会 TEL 03-3455-5851
BUKKYO DENDO KYOKAI (平日9:00~17:00)

海外協力機関のご紹介

北米地区

米国仏教伝道協会
ハワイ仏教伝道協会
カナダ仏教伝道協会

中米地区

メキシコ仏教伝道協会
メキシコ恵光寺

南米地区

南米仏教伝道協会

欧州地区

ヨーロッパ仏教伝道協会
ドイツ恵光日本文化センター
英国仏教伝道協会
ポーランド仏教伝道協会

アジア地区

アジア仏教伝道協会
台湾仏教伝道協会
タイ仏教伝道協会

日本国外には、現在10ヵ国11ヵ所にそれぞれ独立した“仏教伝道協会（通称：BDK）”があり、日本の仏教伝道協会と相互に連携しながら、特に「仏教聖典」の頒布活動を通じて仏教精神、仏教文化を伝えています。

海外協力機関のご紹介



お問い合わせ一覧

●各国での「仏教聖典」頒布やその他活動の詳細に関するお問い合わせは、お近くの仏教伝道協会までお願いします。

北米地区

米国仏教伝道協会
BDK America

1675 School Street,
Moraga, CA 94556 U.S.A.
Tel: +1(925)388-0067 Fax: +1(925)388-0331
<http://www.bdkamerica.org> (対応言語: 日本語・英語)

ハワイ仏教伝道協会
BDK Hawaii

1750 Kalakaua Avenue, Suite 403
Honolulu, Hawaii 96826, U.S.A.
Tel: +1(808)942-1511
E-mail: bdkshi@hotmail.com
<http://www.bdkhawaii.com> (対応言語: 英語)

カナダ仏教伝道協会
BDK Canada

c/o Mitutoyo Canada Inc.
2121 Meadowvale Blvd.
Mississauga, ON, CANADA L5N 5N1
Tel: +1(905)821-6202 Fax: +1(905)821-4968
E-mail: honjo@bdkcanada.com
<http://www.bdkcanada.com> (対応言語: 日本語・英語)

中南米地区

メキシコ仏教伝道協会／メキシコ恵光寺
BDK Mexico

Prologación Eugenia No. 17, Colonia Nápoles,
Alcaldía Benito Juárez, CDMX, C.P.03810, MEXICO
Tel: 52(55)3130-4610
E-mail: contacto@ekocj.com
<http://ekocj.com> (対応言語: 日本語・スペイン語・英語)

南米地区

南米仏教伝道協会
BDK South America

a/c Mitutoyo Sul Americana Ltda.
Avenida Mimes, 25 - Jardim Ermida I
CEP: 13212-216 - Jundiá - SP, Brasil
Tel: +55(11)4746-5813
E-mail: bdk@mitutoyo.com.br (対応言語: 日本語・ポルトガル語・英語)

欧州地区

ヨーロッパ仏教伝道協会／ドイツ恵光日本文化センター
BDK Europe/EKO-Haus der Japanischen Kultur e.V.

Brüggener Weg 6,
40547 Düsseldorf, GERMANY
Tel: +49(211)577918-0 Fax: +49(211)577918-219
E-mail: bdk@eko-haus.de
<http://www.eko-haus.de> (対応言語: 日本語・ドイツ語・英語)

英国仏教伝道協会
BDK U.K.

c/o Mitutoyo(UK)Ltd. Joulé Road, West Point
Business Park, Andover, Hampshire SP10 3UX U.K.
Tel: +44 1264-353123
E-mail: BDK.UK@mitutoyo.co.uk (対応言語: 英語)

ポーランド仏教伝道協会
BDK Poland

c/o Mitutoyo Polska Sp.z o.o.
ul. Graniczna 8A 54-610 Wrocław, POLAND
Tel: +48(71)354 83 50 Fax: +48(71)354 83 55
(対応言語: ポーランド語・英語)

日本以外のアジア地区

アジア仏教伝道協会
BDK Asia

c/o Mitutoyo Asia Pacific Pte. Ltd.
24 Kallang Avenue, Mitutoyo Building,
Singapore, 339415, SINGAPORE
Tel: +65 6294-2211 Fax: +65 6299-6666
E-mail: bdk@mitutoyo.com.sg
<https://bdkasia.org> (対応言語: 日本語・英語・中国語)

台湾仏教伝道協会
BDK Taiwan

4F., No.71, Zhouzi St., Neihu Dist.,
Taipei City 114, TAIWAN
Tel: +886(2)5573-5913 Fax: +886(2)8752-3267
E-mail: bdktaiwan@yahoo.com
<https://www.bdk.tw> (対応言語: 日本語・英語・中国語)

タイ仏教伝道協会
BDK Thailand

2327, Onnut Road, Kwaeng Onnut,
Khet Suanluang, Bangkok, 10250, Thailand
Tel: +66 61-270-0559 (対応言語: 日本語・英語・タイ語)
E-mail: admin@bdkthai.org



沼田仏教学講座コーディネーター会議出席者

米国仏教伝道協会 BDKアメリカ (アメリカ・カリフォルニア州)

2025年の活動報告

BDKアメリカでは、2025年も新たな取り組みをいくつも開始し、非常に充実した一年となりました。なかでも特に大きな挑戦となったのが、日本仏教の研究を志す大学院生を対象とした3週間の体験型研修ツアーです。本プログラムには5名の学生が選ばれ、東京・京都・奈良の寺院や大学、各種施設を訪問しながら、仏教に関わる多様な営みを内側から学ぶ機会を得ました。また、日本およびアメリカの第一線で活躍する研究者による講義も行われ、参加者は専門的なテーマについて深く議論を交わし、日本各地の食や風景といった日常の魅力も体感しました。

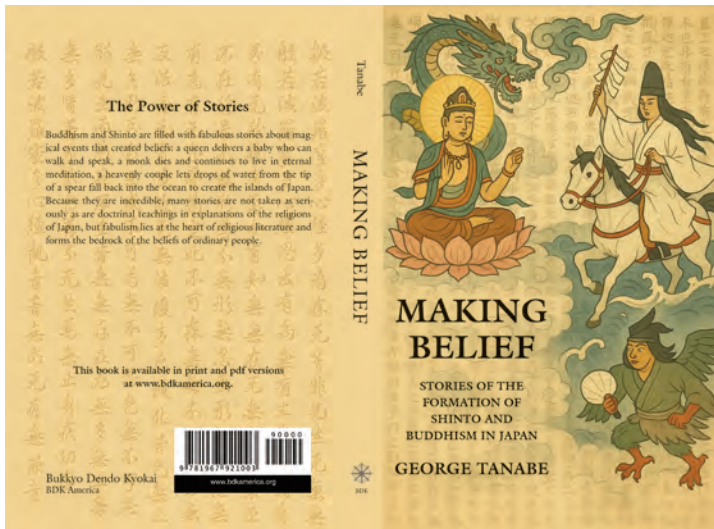
また、BDKカナダとの連携をこれまで以上に強化し、今後はBDKアメリカがカナダに対してより充実した支援を行える体制を整えました。トロント、モントリオール、ハミルトン、カルガリーの各大学では、沼田仏教学プログラムが活発に展開されています。法務および財務の専門家との綿密な協議を経て、新たな協定を策定し、8月にトロント



ワシントン恵光寺お盆祭り

にて新たな協定に署名しました。アメリカ、カナダ、ヨーロッパの各大学における沼田仏教学講座は、引き続き優れた仏教学研究者を輩出しています。これらのプログラムは長年にわたり段階的に整備されてきたものであり、現在は日本の仏教伝道協会と緊密に連携しながら、各大学との協定内容の見直しと更新を進めています。なお、例年通り、各講座のコーディネーターは11月にボストンで開催された年次学会において会合を持ちました。

一般読者向けの書籍へのニーズに
応えるため、新刊『Making Belief:
Stories on the Formation of
Shinto and Buddhism in Japan』
を刊行しました。本書はジョージ・



「Making Belief」表紙

タナベ氏によるもので、宗教指導者にまつわるさまざまな逸話や、それぞれの宗教的制度を支える信念の形成過程をわかりやすく描いています。また、現世利益に関わる民間信仰や、仏教の葬送儀礼についても取り上げています。

BDKアメリカでは、引き続き大蔵経の英訳事業を進めています。2025年には、『十住毘婆沙論（第2巻）』『摩訶止観（全2巻）』『月灯三昧経』の計4冊を刊行しました。本事業は、日本の編集委員会とBDKアメリカの出版委員

会による共同プロジェクトとして進められており、現在は刊行点数のさらなる拡充を目指し、AI翻訳の活用についても検討を進めています。急速に進化する技術ではありませんが、今後の可能性に大きな期待が寄せられています。

2025年の沼田智秀仏教書籍優秀賞には、ワシントン大学名誉教授コレット・コックス氏による『A Gandhari Abhidharma Text: British Library Kharoṣṭhī Fragment 28』が選ばれました。授賞式およびシンポジウムは、2025年12月5日に浄土真宗センター（カリフォルニア州バークレー市）にて開催されました。

また、ワシントン恵光寺に対する支援も引き続き行っています。BDKの職員は定期的に同寺を訪問し、花まつり法要やお盆行事の運営支援、講話やセミナーの実施などに携わっています。さらに、6月に開催されたデンバー仏教寺院の桜祭りにも協力しました。このほか、西海岸の寺院からも法話や各種活動への協力依頼を受け、継続的に支援を行っています。

2026年も、こうした多様な活動を通じて仏教の普及に取り組んでまいります。

ハワイ仏教伝道協会 BDKハワイ (アメリカ・ハワイ州)



2025年の活動報告

2025年は、BDKハワイ事務局がワイキキに隣接するカラカウア通りへ移転したため、大きな節目の年となりました。これまで使用していた旧オフィスは老朽化した建物内にあり、維持費の増加を受けて売却し、新たな拠点に移ることになりました。

新事務局の開所式は2025年2月21日に執り行われました。まず、クムフラのレファ・マツオカ氏によるハワイの伝統的な詠唱が行われました。つづいて、来賓として大谷裕氏（真宗大谷派新門）ご夫妻などご臨席のもと、木村清孝氏（仏教伝道協会会長）により、開所法要が執り行われました。閉式後には昼食会が開かれ、参加者は歓談を楽しみながら、ハワイ浄土宗の石川宏宣氏お手製の美味しいシフォンケーキを味わいました。

翌日の2月22日には、BDKハワイの年次理事会を開催しました。公益財団法人仏教伝道協会の活動報告があり、その中で東京の複数の寺院を巡るランニングイベント「Tokyo Temple Run」（28ページに掲載）

が紹介されました。この企画から着想を得て、ハワイでも独自の企画を実施。参加者の多くが高齢であることを踏まえ、「Temple Walk」と題し、ホノルル市内の4つの寺院を巡るウォーキングイベントとして開催しました。参加者は程良い運動



開所式出席者



「Temple Walk」参加者（於日蓮宗ホノルル妙法寺）

と参加者同士の交流に加え、寺院を訪ねて学ぶ貴重な機会を楽しみました。

また、BDKハワイは、仏教に深く関わったネイティブ・ハワイアン女性たちに焦点を当てたドキュメンタリー映画の制作にも共同出資しました。このあまり知られていない興味深い物語の中心人物は、メアリー・ミカハラ・フォスター氏

（1844-1930）です。彼女は、近代仏教の世界的指導者として知られるスリランカの僧、アナガールカ・ダルマパーラ氏（1864-1933）と出会ったことを機に仏教へ帰依しました。裕福な家系に生まれたフォスターは、アジアおよびハワイにおける多くの仏教活動を支援しました。なかでも、浄土真宗本願寺派にホノルルの土地を寄進した

ことも、その活動の一つとして知られています。

さらにBDKハワイでは、西洋における仏教の歩みを伝える、もう一つのあまり知られていない歴史に光を当てるプロジェクトにも取り組んでいます。これは、BDKおよびミットヨの創設者である沼田恵範氏の足跡に関わる重要な物語です。沼田恵範氏は1916年、19歳で広島を離れ、オアフ島ノースショアのワイアルア本願寺に赴任し、布教活動を始めました。1918年に主任僧の下迫智円氏が逝去した後は、1919年にさらなる学びのためカリフォルニアへ渡るまで、同寺の教化に尽力しました。その後、カリ

フォルニア大学バークレー校を卒業し、日本に帰国して株式会社ミットヨおよびBDKを創設しました。

ワイアルア本願寺は近年、信徒数の減少により閉院が決定されましたが、ワイアルア歴史協会はBDKなどの協力のもと、この建物を歴史遺産および地域コミュニティセンターとして再生する計画を進めています。寺院としての役割は終えるものの、ハワイにおける仏教の歴史を伝える初の博物館として、新たなかたちで未来へと受け継がれていくと同時に、ワイアルアにおける沼田恵範師の歩みも大切に語り継がれていくことでしょう。

メキシコ仏教伝道協会 BDKメキシコ

（メキシコ・メキシコシティ）

2025年の活動報告

2025年は、メキシコに約20ある日系人コミュニティとご縁を、

さらに深める一年となりました。恒例の盂蘭盆会法要は、メキシコシティ、グアダハラハラ、クリアカンに加え、新たに北部のサルティエリョとパラスでも実施しました。また11月には、中南米初の日本人入植地である南部チアパス州アカコヤグアに

で、開拓に尽力されたご先祖への感謝の法要をお勤めしました。現地在住の日系人の皆さまからの法要等の依頼も着実に増えており、日本の伝統を受け継いでいきたいと願う方がたのお気持ちを大切に受け止めながら、今後も一つひとつ丁寧に取り組んでまいります。

メキシコ政府文化省やアルバ・エジソン学園との長年にわたる協働も、着実に広がりを見せています。講話に加え、紙芝居や演劇などさまざまな形を通して、子どもから指導者層まで、幅広い方がたに仏教に基づく日本文化をお伝えしています。



国立博物館内の子ども図書室にて紙芝居 文化省委託事業 家族連れに『ブツダがせんせい』スペイン語版を頒布



アルバ・エジソン学園入学式にて新入生全員に『仏教聖典』を手渡す



ミットヨメヒカーナにて祖先祭



榎本殖民法要



国際子どもブックフェアに出展 日本語で名前を書くサービスも



国立芸術センターにて開催された文化省主催『死者の日』のイベントで演劇『三人の笑う法師』を上演後、家族連れに『仏教聖典』を手渡す

EKO出版部の活動としては、2025年は2つの国際ブックフェアに出展したほか、メキシコ国立自治大学や日墨会館、国営書店において出版記念企画を実施しました。BDK発行の「さとりの知恵を読む」「ブツダがせんせい」のスペイン語版に加え、『Sutra del corazón』『Richismo』などのEKOオリジナル書籍も紹介し、多くの方がたに関心をお寄せいただきました。「仏教聖典」は一人ひとりに手渡すことを大切にしており、2025年は約3,300名の方がたにお届けすることができました。

BDKメキシコとメキシコ恵光寺は、これからも人びとに寄り添いながら、すべての生きとし生けるものの幸せを願い、歩みを重ねてまいります。



デーシャ・ブルックパッタナラク氏（左）カワイー・ブンスワン氏（右）

タイ仏教伝道協会 BDKタイランド （タイ・バンコク）

2025年の活動報告

2025年、BDKタイランドは、タイ王国全土に仏陀の智慧を広

く届ける取り組みにおいて、一つの節目となる成果を得ることができました。なかでも、労働省傘下の技能開発局との連携が実現したことは、大きな一歩となりました。

BDKタイランド会長のカワイー・ブンスワン氏は、技能開発局長デシャ・ブルックパッタナラク

ク氏と面会し、全国の職業訓練機関への「仏教聖典」の配布について意見交換を行いました。職業人としての成長において、こころの拠りどころが大切であるとの理解のもと、技能開発局のご協力により、タイ全土にある89の関連機関すべてへの配布が実現しました。

その結果、合計3,560冊を届けることができ、職員や指導者、研修生の方がたに広く活用されて



技能開発局へ送付する「仏教聖典」



技能開発局へ送付予定の「仏教聖典」を準備するスタッフ

おり、日々の学びや仕事に向き合う中での気づきや指針として「仏教聖典」が役立てられています。

技能開発の現場にこのようなかたちで仏法の種が蒔かれることは、社会全体の調和にもつながっていくものと考えています。今回の取り組みにご協力いただいた技能開発局の皆様にご心より感謝申し上げます。

ヨーロッパ仏教伝道協会 BDKヨーロッパ （ドイツ・デュッセルドルフ）

2025年の活動報告

2025年9月13日、恵光センター最大の年中行事である庭園祭を開催しました。当日は1,000名を超える来場者が訪れ、太鼓や箏、三味線、着物ショーなど、日本文化の多彩な魅力を楽しみました。

また、9月26日からの3日間には、ハイブリッド形式による学術シンポジウムを実施しました。フランツ・イスカ・エームケ氏（ケルン大学名誉教授）の主宰のもと、香道、茶道、雅楽、着物といった伝統芸術をはじめ、美術やポップカルチャーにおける感覚的な印象や体験をテーマに、10名の研究者が発表を行いました。

11月29日には、ヨーロッパ各地の浄土真宗の僧侶や門信徒が一堂に会



シンポジウム



除夜会



庭園祭

し、ハイブリッド形式で報恩講法要をお勤めしました。ルエラ・マツナガ氏より英語でご法話をいただき、親鸞聖人の御遺徳を偲びました。12月31日には除夜会をお勤めしました。開場前から多くの方が列を作り、開場後まもなく約60名の参拝者で満堂となるほどの賑わいでした。雅楽の奏楽とともに法要を執り行い、その後、参拝者は鐘楼へ移動し

て除夜の鐘を撞きました。鐘撞きはおよそ3時間にわたり、130回ほど行われました。当日は気温0度の雨天ではありましたが、全体では約400名の参拝があり、味噌汁や日本酒などの温かい飲み物、干支人形の販売も行い、多くの方で賑わいました。

さらに、2025年9月からの1年間、京都市立芸術大学大学院博士課程に在学する廣田沙羅氏が、ドイツ「恵光」日本文化センターの研究奨学生として当センターを拠点に研究活動を行っています。廣田氏は、作曲家・細川俊夫氏の作品における「間」（音と音のあいだに生まれる静けさや余白の表現）をテーマに研究を進めており、あわせて細川氏の作品を中心とした演奏会の開催も予定しています。

団体（だんたい）

多くの人が集まって組をなすもの、

共通の目的で二人以上の集団を団体といいます。

「仏教聖典」には、世の中には三通りの団体のあることが説かれます。すなわち、

一つは、権力と財力のそなわった指導者がいるために集まった団体

二つは、ただ都合のために集まって、

自分たちに都合よく争わなくてもよい間だけ続いている団体

三つは、教えを中心として和合を生命とする団体

があると説かれ、その中で、

まことの団体は第三の団体だけであるとあきらかにし、

その素晴らしさを、一つの心を心として生活し、

その中からいろいろの功徳を生んでくるから、

そこには平和があり、喜びがあり、満足があり、幸福がある。

と説かれています。

（仏教伝道協会第二代会長 沼田智秀 著書『ささえあって―百八つのおもい―』より）